Teku-Teku
FEATURE

すべては民のため 武田信玄

信玄（晴信）は、大永元（1521）年11月3日に信虎の嫡男として甲府の要害城の麓、積翠寺で誕生しました。青年時代から詩歌や文学に親しみ、孫子の兵法にも精通。深めた教養を多岐にわたり応用することで、信玄は戦国時代に優れた武将としてその名をはせると同時に政治にも才能を発揮したのです。

信玄は「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、あだは敵なり」を領国経営の理念とし、民のことを考え国造りをしました。53歳でその生涯を終えるまで、信玄の成し遂げた偉業は数知れず、今もなお、人々の心と暮らしの中に息づいています。

川中島大合戦之図 部分（南アルプス市立美術館 所蔵）

信玄の卓越した領国経営

―徳川家康も範とした―

武田晴信公画像（武田神社 所蔵）

最強の戦国武将として
誰しもが知る武田信玄。
実は政治家としても優れた人物でした。
「民力を高める＝国力を高める」を
モットーとしていた信玄とは…。
日本中世史の研究で知られる、
歴史学者の平山優さんが語ります。

信玄は中国の書物を読破する文学青年だった。

「戦国時代はなぜ争いが頻発したのでしょうか。当時は小氷河期と言われ、冷夏、長雨、干ばつなど天候が不順でした。そのため慢性的な飢饉（ききん）に見舞われ、他の領地に攻め込んで食料などを奪い取ってきたわけです。実はこれが戦国争乱の本質だといわれています。信玄がすごいのは戦に長けていただけでなく、もっと長い目で領国を豊かにする方策を考えていたところで、そこに政治家としての信玄の力が発揮されているのです。

優れた政治家に成り得た要因の一つに、文学青年だったことが挙げられます。もともと守護家というのは伝統的な武家なので教養人が多く、そのような環境で育った信玄も中国の書物を読破し、よく理解しました。戦国最強といわれた武田軍の象徴『孫子の旗』（別名『風林火山』）も中国の兵書『孫子軍争編』の言葉を引用しています」

「太鼓判を押す」「お金に糸目はつけない」甲州金から生まれたといわれる慣用句。

「信玄は領国の経済発展のため金山開発に力を入れ、『甲州金』という貨幣を作りました。甲州金は金の純度が高く高品質だったこと、また壱分金の形が、まるで和太鼓を上から見た姿に似ていることから、『太鼓判を押す』が、『保証する』『間違いない』という意味になったという説があります。

また、糸目金は甲州金の中で非常に小さく価値のわずかな貨幣でした。そこで、お金を思い切って使うときには、『糸目のようなわずかなお金は気にも留めない』の意味から、『お金に糸目はつけない』という言葉が生まれたともいわれています」

信玄が育てた人、技術、そして物が260年続いた江戸幕府の体制を支えた。

「金というのは秤量貨幣なので、重さで流通します。秤がしっかりしていないと安定した流通が望めないわけです。そこで信玄は職人を甲斐に呼んで正確な秤を作らせました。それが『守随秤』です。この秤は徳川家康が武田家滅亡後に江戸でお墨付きを与え、江戸秤座となりました。そして江戸時代、東日本33カ国(当時日本は66カ国)の共通の秤として幕府が認定しました。信玄が作らせた秤が、非常に技術力が高く精密だったので、家康はそのまま使ったわけです。

それだけでなく、信玄が育てた家臣にも江戸幕府の要職として数多くの実績を残した人たち(大久保長安、鎮目市左衛門など)がいます。信玄が育てた人、技術、そして物が、260年続いた江戸幕府の体制を支えたといえるのです」

守随秤

［甲州金］
里芋の葉に滴が落ちて、"ころころ"とした様に似ていることから名が付いた「露壱両金」(左上)
「お金に糸目はつけない」の語源ともされる「糸目金」(右上)
「太鼓判を押す」の語源ともされる「壱分金」(右下)

山梨中銀金融資料館

住　　所／甲府市中央2-11-12
T　E　L／055-223-3090
開館時間／9:00～17:00(入館は16:00まで)
開 館 日／日～木曜日
　　(ただし祝日・12月29日～1月4日は休館)
入 館 料／無料

後世に継承される治水事業に着手した信玄

「甲府盆地は古来から洪水が多かったので、信玄は治水事業を行い、耕地開発を進めました。10～20年先ではなく、おそらく50～100年という期間で物事を見ていたのでしょう。その集大成の一つが『信玄堤』です。領国を水害から守り荒れた土地を開拓していく基盤をつくった政治家は、あの時代には信玄しかいなかったですね。信玄堤は決壊した記録が全くなく、今も山梨の人々の生活を守っているんです」

「武田信玄というと、戦の世界の信玄像に目がいきがちですが、実は信玄は今も私たちの世界にしっかり根付いたものを残してくれています。

信玄の器量というのは彼が健在だった時はもちろんのこと、亡くなった後も長く効力を発揮し続けました。中でも『甲州金』『守隨秤』『信玄堤』は、特筆すべきものだと思います。信玄はまさに当代に傑出した大政治家だったのです」

平山　優さん

日本中世史に関わる研究を精力的に行う歴史学者。武田氏研究会副会長。山梨県立中央高等学校教諭。2016年放送の大河ドラマ『真田丸』をはじめ、ドラマなどの時代考証を手掛ける。

［信玄堤（しんげんづつみ）］甲斐市竜王

釜無川（かまなしがわ）と御勅使川（みだいがわ）が合流する付近は、しばしば大洪水に見舞われた。そこで信玄は、釜無川沿いに堤を造るとともに、御勅使川から堤を守るため、川の流れを変えて「高岩」と呼ばれる自然の崖へぶつけ、川の勢いを弱めるなどの治水事業を約20年の歳月をかけ行った。（右図）

「以前、地元の人に伊勢湾台風（1959年）の時の話を聞きました。当時も信玄堤の脇に家があったわけですが、波頭を立てて川幅いっぱいまで水が押し寄せてきたそうです。誰もがこれはもうダメだと思ったけれど、信玄堤は切れずに下流の新しい堤防が切れたと言っていました。今でも信玄堤は現役なんです」と平山さんが語ります。

信玄堤絵図（保坂家資料 個人蔵）

信玄ゆかりの史跡を訪ねて。

山梨県内には、
武田信玄ゆかりの史跡が数多く残されています。
その中でもぜひ巡りたい名所を
歴史学者の平山優さんに教えていただきました。
激動の戦国の世を生きた信玄をしのびながら、
歴史ロマンを感じてみてはいかがですか？

軍配（恵林寺 所蔵）

大善寺

養老2（718）年創建の古刹（こさつ）です。
本堂「薬師堂」（右）は国宝に指定されています。薬師如来、日光・月光菩薩（下）を配し、三像ともにサクラ材の一木造で国の重要文化財です。他にも十二神将立像（国の重要文化財）など数多くの仏像が安置されています。信玄が家督を継ぐ前年（1540年）の大風で本堂の屋根は吹き飛び、薬師如来像や日光・月光菩薩像などは全部雨ざらしになってしまいました。そこで信玄が大修理をしたのです。今の本堂は数少ない信玄時代の建物の一つです。

❖ 甲州市勝沼町
JR中央本線・勝沼ぶどう郷駅からタクシーで約5分

恵林寺

元徳2（1330）年、夢窓国師により開山されました。甲斐の臨済宗の中心の一つで、京都の妙心寺の有力な僧侶が次々に信玄の依頼で入山した寺院でもあります。信玄は生前に恵林寺を菩提寺として定めていました。

❖甲州市塩山
JR中央本線・塩山駅からバスで約15分。恵林寺前バス停で下車

四脚門（通称・赤門）

天正9（1582）年、織田信長の甲州征伐で焼失。その後、慶長11（1606）年、徳川家康によって再建されました。再建時の姿を今に残す遺構は、恵林寺の山号「乾徳山」の額を掲げ、鮮やかな朱色がひときわ目を引きます。国の重要文化財にもなっています。

武田不動尊

明王殿に安置されている武田不動尊は信玄が京都から仏師を招き、自らと対面させて模刻させたといわれるものです。信玄は自らの毛髪を漆に混ぜ、座像の胸部に刷毛で塗り込めたと伝えられています。

信玄公の墓所

元亀4（1573）年、53歳で信玄は亡くなりました。遺言どおりその死を3年間秘した後、快川国師により本葬儀が行われました。武田家臣の供養塔約70基も墓所後陣に並んでいます。※毎月12日のみ特別公開

夢窓国師の庭園

鎌倉時代、夢窓国師の築庭とされる美しい庭園（国指定名勝）も見どころです。

三 門

武田家滅亡後、織田信長による焼き討ちの際、三門に立てこもった快川国師が「安禅必ずしも山水を須（もち）いず、心頭滅却すれば火も自（おのずか）ら涼し」の言葉を残したと伝えられています。

武田八幡神社

弘仁13(822)年創建と伝わる古社で、武田家の氏神としてあがめられてきました。現存する社殿は天文10(1541)年信玄が造ったと伝えられているもので、三間社流造(さんげんしゃながれづくり)・桧皮葺(ひわだぶき)で意匠的にも優れています。当時の建築様式を伝える遺構として国の重要文化財に指定されています。石鳥居は室町時代に、二の鳥居は江戸時代に造られたとされる県指定文化財です。武田家滅亡の時に勝頼の正室・北条夫人が願文を納めたことでも知られています。

❖韮崎市神山町
JR中央本線・韮崎駅からバスで約15分
武田八幡入口バス停で下車

❖武田信玄略年譜❖

1521	武田信玄誕生
1541(21歳)	信玄、父・信虎を追放
1542(22歳)	釜無川が大氾濫し、 『信玄堤』の建設を始める
1547(27歳)	甲州法度次第を制定
1553(33歳)	第一次川中島合戦で、上杉謙信と戦う この後、1564年まで5回にわたり 川中島合戦を繰り広げる
1560(40歳)	『信玄堤』完成
1572(52歳)	三方ケ原合戦で 徳川家康を撃破する
1573(53歳)	信州伊那駒場にて武田信玄死去

冨士御室浅間神社

富士山最古の神社で武田三代に崇敬され、信玄がお社などを寄進したといわれています。ご祭神が木花開耶姫命であることから女性に関する広い信仰があり、信玄も三国同盟のため北条氏政に嫁がせた娘・黄梅院殿の安産を祈願した願文を納めています。このことからも信玄の信仰の厚さと、実はとても子ども思いだった一面が見てとれます。

❖富士河口湖町勝山
富士急行線・河口湖駅から周遊レトロバスで約15分
富士御室浅間神社バス停で下車

甲斐善光寺

永禄元(1558)年、信玄により創建されました。
川中島の戦いの時に、信玄は信州善光寺に戦火がかかることを恐れて、善光寺如来(秘仏)とお寺や門前町の機能を甲斐に持ってきました。甲斐善光寺は最終的に信玄が亡くなる前年に完成しました。江戸時代に焼失するまでは今の1.5倍ほどの広さがあり、信州善光寺とほぼ同じ規模でした。

❖甲府市善光寺
JR中央本線・甲府駅からタクシーで約12分
JR中央本線・酒折駅から徒歩約15分
JR身延線・善光寺駅から徒歩約7分